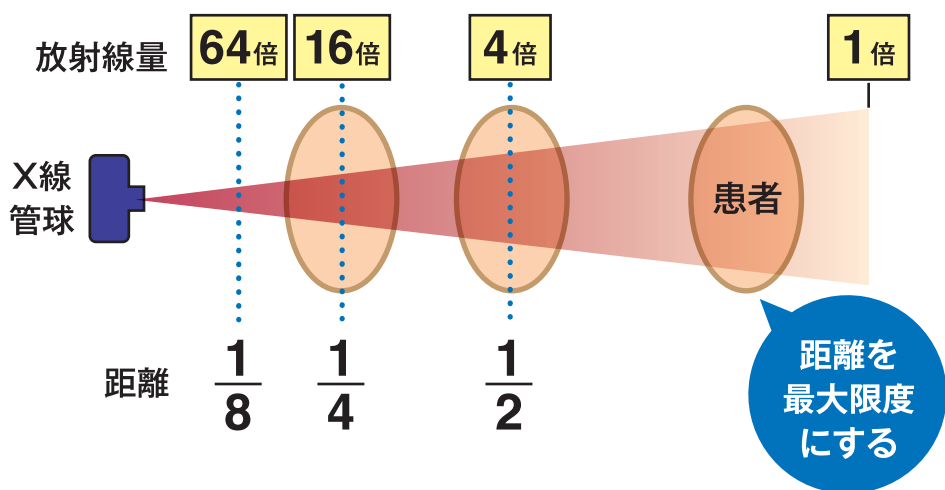


要点

1

X線管球と患者の距離を最大限にする

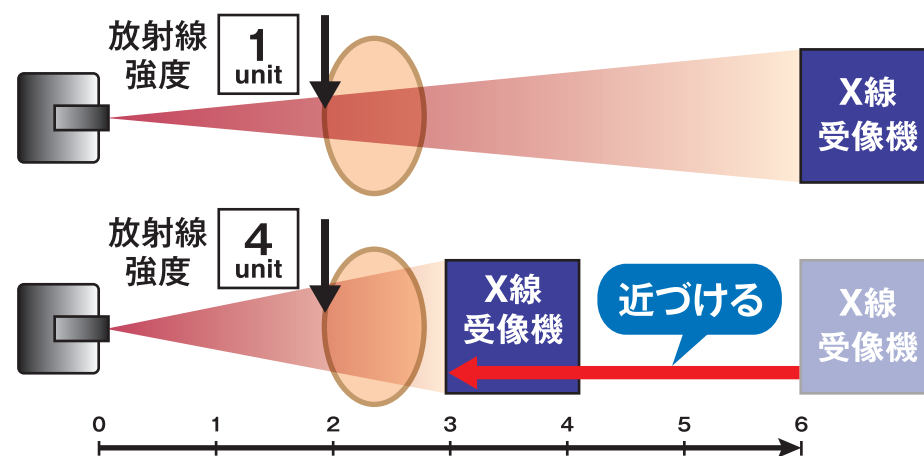
放射線量を極力減らすために距離を最大まで離すようにします。



要点

2

X線受像機 (FPDなど) を患者にできるだけ近づける



要点

3

透視時間を短くして不要な透視を避ける

すべての患者の透視時間と、可能な場合は面積線量を記録します。

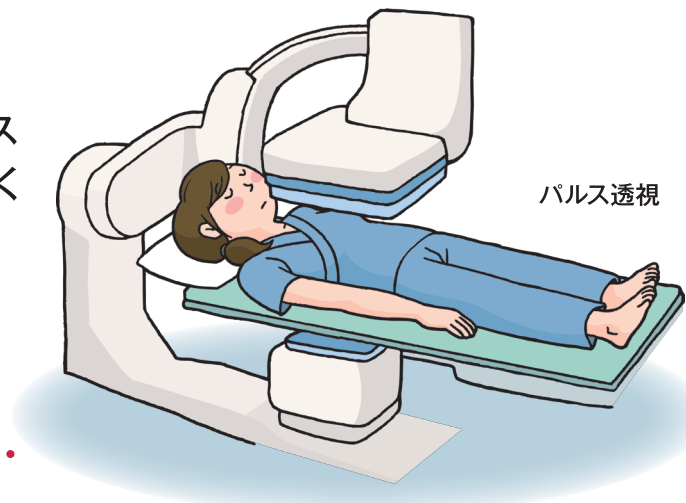
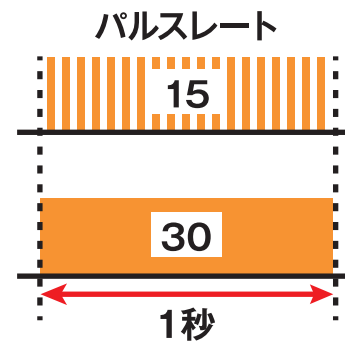


要点

4

パルス透視は画質が許容される範囲の低レートを用いる

低レートでのパルス透視は放射線被ばくを減らします。

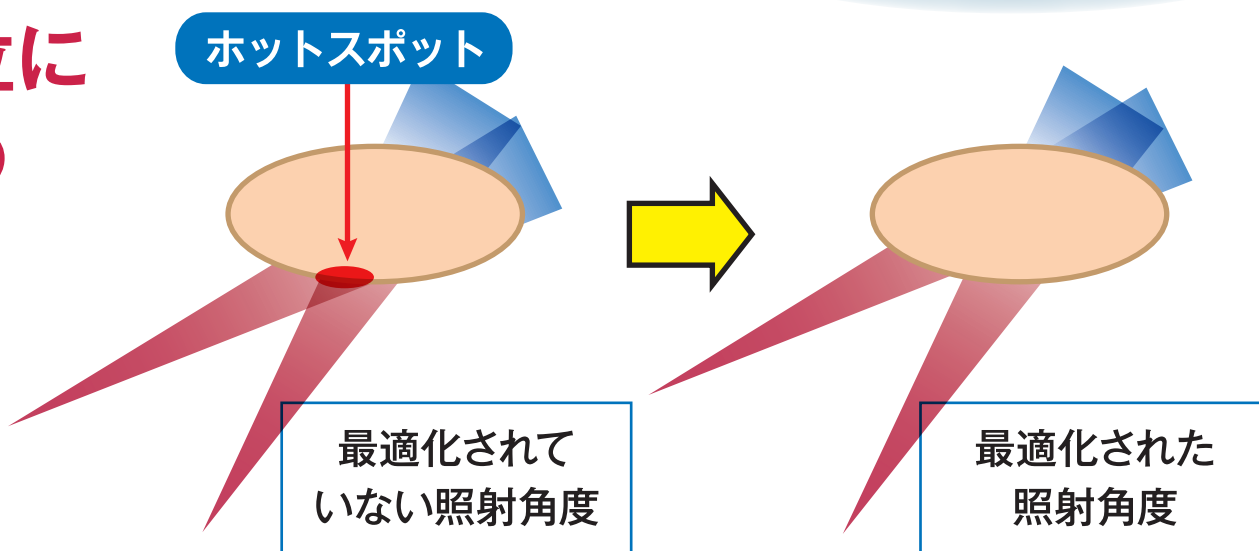


要点

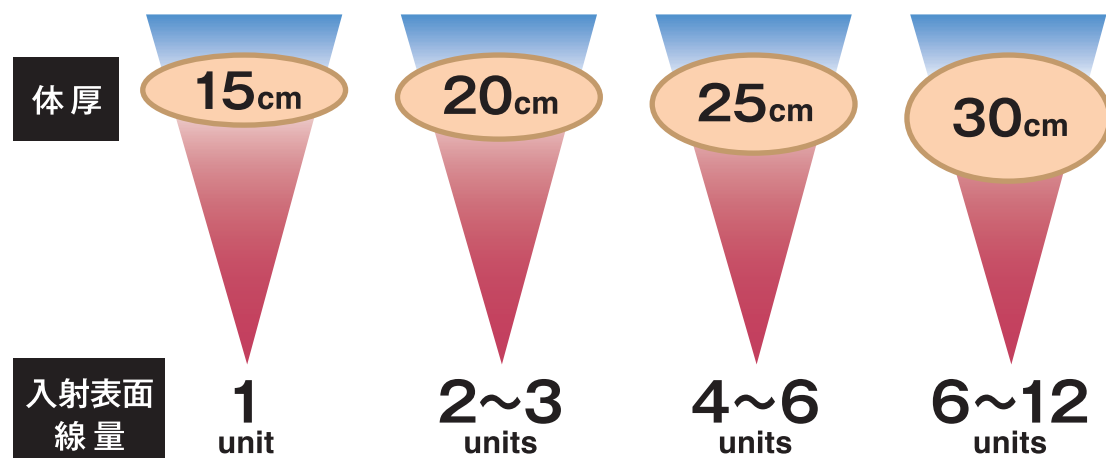
5

皮膚の同一部位に対する多方向からの照射を避ける

患者への照射範囲が重なってホットスポットが生じないように、最適な角度に変化させます。

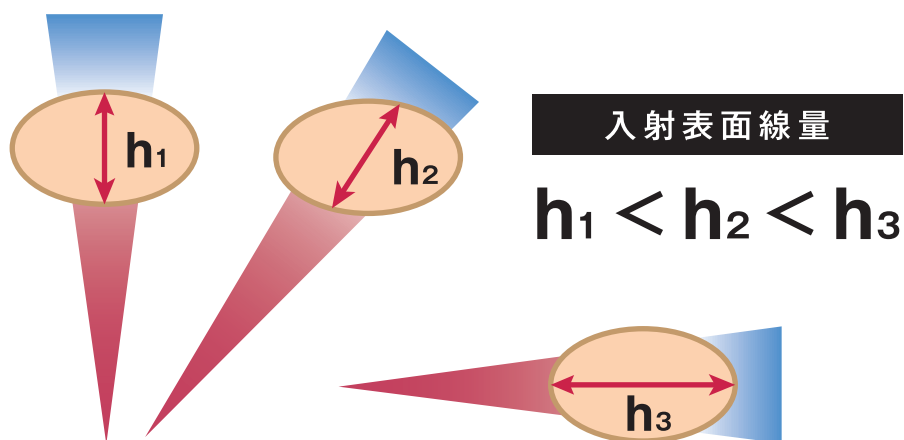


要点
6 体格の大きい患者
または 体厚の厚い部分の
入射表面線量は増加する



要点
7 斜位方向からの照射も
入射表面線量は増加する

入射表面線量の増加で、皮膚障害の可能性が増加します。



要点
8 不必要な拡大透視を
避ける

拡大透視で検出器のイメージサイズを小さくすると、
患者の被ばく線量は増加します。

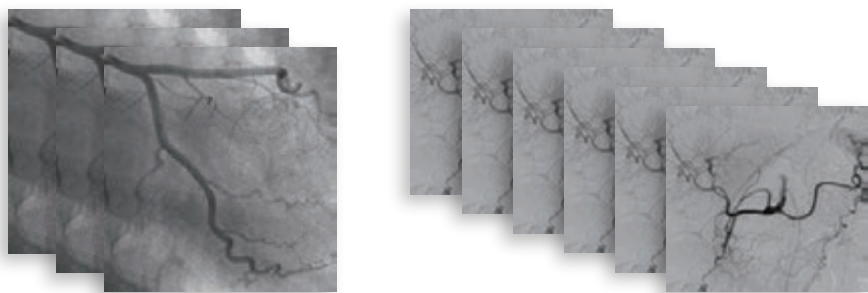
	I.I. あるいは FPD のサイズ比	拡大した場合の相対値 (入射線量率)	
		I.I.	FPD
拡大すると	1	100	100
	1/2	400	200

被ばく線量が増加する

(実際の増加率は装置等によって異なる)

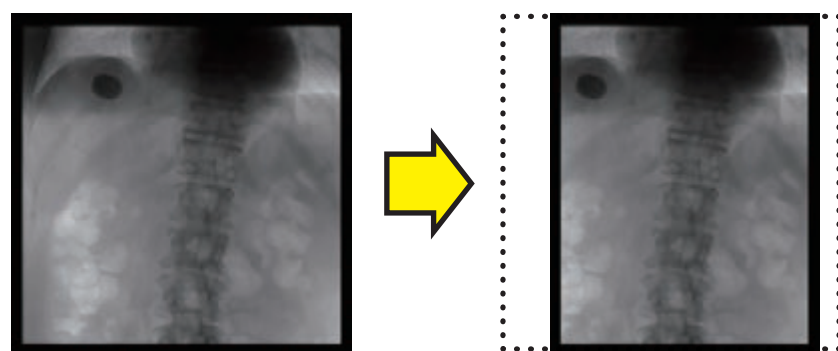
要点
9 臨床的に許容される範
囲での、最小限の撮影コマ
数を選択する

手技の記録用の画像は可能な限りシネモードではなく、ラスト
イメージホールドや透視画像の記録を有効に利用します。



要点
10 照射野を絞る

照射野をできるだけ絞って、不要な被ばくを減らします。



患者被ばくの減少は、つねに医療従事者の被ばく軽減につながります